

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第31号 平成23年10月16日

バッテリーミスもあったが、好ゲームに貢献！

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	0	0	0	0	0	1	0	1
B	0	0	0	0	4	2	x	6

好投祐太郎を打線が見殺し・・・



10/16(日) 埼玉荒川運動公園まで出向き、Victoriaの決勝トーナメントをBCCと行った。前日の降雨がグラウンドコンディションにどのように影響するかは、横浜から65km先の土地なので、残念ながら知る由も無い。朝は、横浜も雨が降っていたが、出発するタイミングで徐々に上空も明るくなってきた。しかし、都内を抜け、埼玉に着いた時には、またもや上空はどんより状態。また、初めての土地なので、どこが会場かも分からない。その中で、一際降雨の影響を受けていないグラウンドに人影が・・・既に相手チームがグラウンド整備を行ってしてくれた。その後両チームで整備を続け、ゲーム開始1時間遅れでプレイボールとなった。今日のマウンドは、依然足に怪我を負っている祐太郎が上がった。その祐太郎の立ち上がりは、1四球を出すも、2奪三振と幸先の良い立ち上がりであり、4回までは緊迫する投手戦、ゲームが動いたのは、5回の相手攻撃。先頭を捕邪飛で1死を得た後、疲れが露呈した。続く2打者に連続の四球を献上、そして、相手3番打者に右前に運ばれ、2塁より一挙ホームインを許し、先制を許した。4番の時には、WPで2点目、後続を二飛打ち取り2死を得たが、次打者の時に、この回2個目のWPで3点目、そして、次打者に右前に運ばれ、この回4点を許した。力尽きた祐太郎はこの回でマウンドを降りたが、2番手でマウンドに上がった政司も2つの四球を安打で絡められ、2点を与えた。そんなゲームの中での我がチームの攻撃は、相手より先に安打を記録していた。最近不調の深沢が初回中前で出塁、しかし、後続が倒れ残塁、3回には、1死後この日唯一の四球を政司が選択し出塁、更に打線は1番に戻る、哲也は強襲ぎみの投ゴロ、これを相手投手が2塁に悪送球で、1死1・3塁の先制の場面、ここで、後続は、叩いたバッティングを試みたが、サード野手の正面、果敢にホームに突っ込んだが、三塁ベース付近のぬかるみにより、好スタートが切れずにホームホースアウト、しかし、2死1・3塁と更に先制チャンスは続いたが、深沢が投飛に倒れ、絶好の先制シーンを逸してしまった。4回にも安打でランナーを出す、打線が繋がらず残塁、6回には、こーすけが右越の2ベースを好走塁で3塁ゲットと思った瞬間、相手内外連携ミスにより、ホームインし、1点を返したが、今日はこの1点止まりだった。振り返ってみると、3回の攻撃に点を入れられる事が出来ていたならば、今日祐太郎の出来たなら、もしかしたら、面白いゲーム展開になったかも知れない。色々考えさせられるゲームであったが、1番は、気迫と練習(経験)の差が物を言ったように感じた。自分達以上のレベルに勝利するには、運だけではなく、実力も必要。グラウンドに出て、勝った負けたと感じるだけではなく、それ以前の取り組みも重要に感じた、バッティングセンターで練習するのも、バットを振るのも、その一つであろう。我がチームが更なる高みに行くのであれば、メンバー全員の意識がその方向に向う事が必須。そうでなければ、今日のようなゲームを繰り返すだけ！と感じたゲームであった。今日でこの大会は終了したが、残りの2つの大会ではそのようにならないように、個々人の努力を期待する！